



2



3



5



6



4



1

1 玄関土間と一体のリビング。2 キッチンにはほどよい広さの配膳台も備え付けた。3 昼食のメニューはグラタンやレバーパテ、ブロッコリーのサラダ。4・5 火の下準備を行うご主人とその様子を見守る娘さん。グラタンはクッキングストーブ「ピキャンパロッサ」で焼いた。6 古いミシンを使ってしつらえられた玄関飾り。土間の一角に玄関があるが、来客に室内が見えないようになっている。

設計・施工 = ^{かず}(株)和工務店

東京都国立市 K邸

家族思いの設計者の計らい

心強い家づくりのパートナーと一緒に理想の家をかなえたKさん家族。その住まいには、家族の人生を読み取った設計者の心づかいから生まれた空間があった。

写真=西川公朗

工務店選びの決め手は木の質感と機能性

夫婦共に東京生まれ。以前に住んでいた中古住宅は夏暑く冬寒い家だった。「そろそろ、限界」と感じ、実家が持つ土地の整理も考えなくてはならない時期でもあり、実家の隣に家づくりを考え始めた。

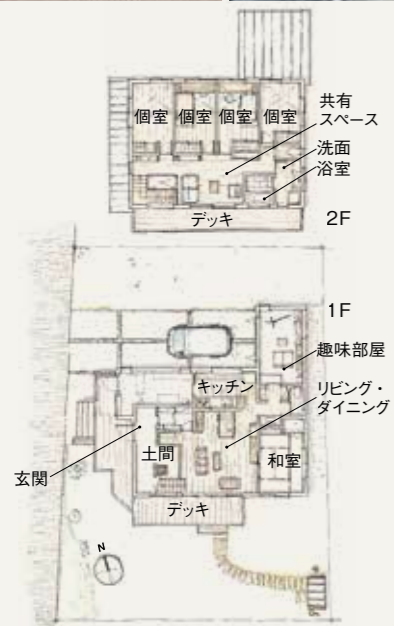
「細かい希望があったのでハウスメーカーなどのセットプランでは希望の家をつくるのは難しいと思います」とご主人。和工務店に依頼したのは、姉夫婦が和工務店で新居を建て、建主側の要望がしっかりと実現されていたからだ。音楽を聴く部屋の防音設備が整っていたり、室温の快適さも心地よく機能的な家を感じられた。いちばん記憶に残ったのが「木の質感」。床面や造り付け家具に統一感があり、その家具のいい匂いもくもりも印象に残った。

K邸を設計したのは、和工務店の香川秀真さん。「何でも聞いてくださるし、専門家としての確かなアドバイスをしながら、希望をかなえようとしてくれる」。

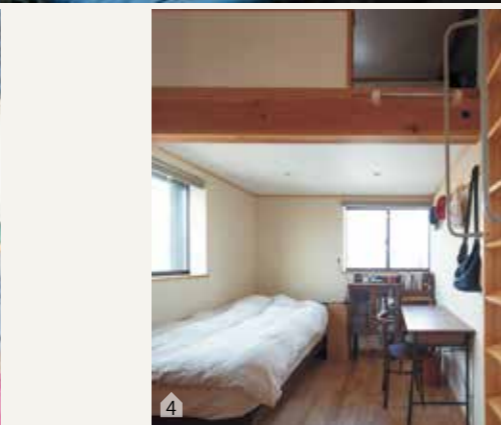
打ち合わせの回数は多かった。

図面のほかにCGや作品例の写真でも互いのイメージを伝え合ったことから、出来上がった家は「イメージ通り」。空間は「思ったよりも大きく感じた」。

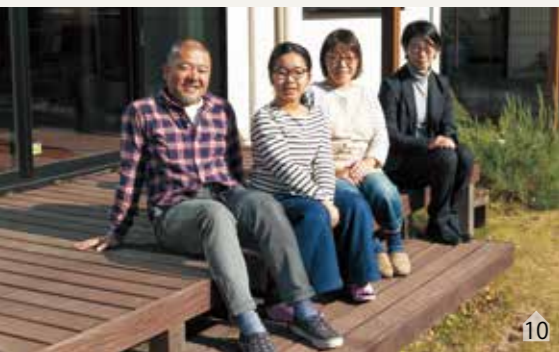
家の間取りがとても好き、と話す夫妻。K邸は夫妻の希望により二つの「土間」がある。一つは薪ストーブのある玄関土間、もう一つはアウトドア好きなご主人の趣味部屋だ。前の家では



所在地：東京都国立市
 家族構成：夫婦+子ども2人
 敷地面積：338.55㎡
 延床面積：156.50㎡
 竣工：2017年4月
 (工期2016年9月～2017年4月)
 設計：(株)和工務店 一級建築士事務所
 ☎042-729-2182 香川秀真
 構造形式：木造軸組工法
 主な外部仕上げ：
 屋根＝ガルバリウム鋼板 縦ハゼ葺き
 軒天井＝レッドシダー羽目板
 外壁＝左官仕上げ (レーヴLM)
 店舗部 木製羽目板
 (ナチュラルウォールシングルパネル)
 主な内部仕上げ：
 天井＝石膏ボード12.5mm
 KOBAYASHI(紙クロス)
 壁＝石膏ボード12.5mm 漆喰
 床＝チーク無垢板 厚15mm リポスオイル仕上げ



1 南側にある共有スペースから周辺を一望できる。天井には内部通気層があり、暖気が落ちる仕組みも。2 各部屋が共有スペースで結ばれている。3 オリジナルの洗面台が目玉。4 「個室は北側でも暗くない」と奥さん。天井に隙間があったり、採光にも工夫がある。5 ～7 駐車場とつながる趣味部屋。土間に置かれたマウンテンバイクは奥さんの趣味だったのがご主人にも伝わった。8・9 庭から玄関前をつなぐデッキ。10 左からKさん一家と和工務店の若月いづみさん。



「家」ができあがっているように見える。

他にも香川さんからの発案でコックだった奥さんの将来の小さなお店をイメージし、玄関脇に9・64平米の部屋を用意した。建主の注文を押さえるだけでなく、その人に似合うプラスチックファを設計することでの「家」ができあがっているように見える。

「香川さんが推した2階のスペースがいいです。旅館や合宿所のようなゆったりしたイメージと香川さんが話していました」と夫妻。

香川さんは夫妻から前の家で気に入っていることや不便だったことをヒアリングし、二人のお気に入りだった縁側のそばにある気持ちのいいソファの空間を新居にも盛り込んだ。それは、アイアンの手すりや施された階段を登った先に広がるソファ空間。窓のそばに共有スペースをつくり、その目溜まりのソファにゆったりとした時間が流れて

設計者のイチオシで つくったスペースが的中

「家」が快適」と話す。K邸は外断熱二重通気工法で家をまるごと断熱材で覆い、外気を寄せ付けないつくりになっている。冬の室温が安定するだけでなく夏の時期、冷房を使用する日も数えるほどで済み、リビングには風が通る。

道具を2階の奥の部屋に収納していたため、玄関まで出すのに一苦労だったが、新居では駐車場に面した折りたたみ窓によって開口部を全開し、スムーズに出し入れできる。「帰って来てからが楽ですね」(ご主人)。

これまで家の結露に悩まされていたというKさん。室内の温度差がないことにも驚き、「家が快適」と話す。K邸は外断熱二重通気工法で家をまるごと断熱材で覆い、外気を寄せ付けないつくりになっている。冬の室温が安定するだけでなく夏の時期、冷房を使用する日も数えるほどで済み、リビングには風が通る。